

【2023年10月23日毎日新聞朝刊】

明治学院大が入学前教育で活用



明治学院大学（本部・東京都港区）は、学校推薦型選抜（旧推薦入試）などで法学部に合格した入学予定者を対象に、時事問題への理解度を測る「ニュース時事能力検定試験」（ニュース検定）

を活用した入学前教育を実施している。

明学大では、多くの学部で、学校推薦型選抜や総合型選抜（旧AO入試）の合格者を対象に、入学準備プログラムとして、読書レポートの作成や英語の長文読解を課してきた。

法学部では2021年、法律を学ぶには時事問題の

基礎知識を習得する必要があるとして、法律学科の入学準備プログラムに新たにニュース検定を加えた。公式テキストを使って自宅学習して22年2月に3級を団体受検し、ほぼ全員が合格した。

今年2月には法学部の全4学科（法律、政治、グローバル法、消費情報環境法）の約370人が、大学入学共通テストの「政治・経済」や「現代社会」の問題レベルとされるニュース検定の準2級に挑戦した。一部の学生は、毎日新聞社が開発し、発信力を身につける教育プログラム「記者トレ」にも取り組んだという。

入学前教育を振り返る今年4月の報告会では、国際分野の問題で正答率が低かった結果などを分析し「高得点で合格した学生は学習意欲が高く、社会に関心を持っているが、与えられた範囲の学習にとどまった学生もいたようだ」と総括した。

今尾真法学部長は「新型コロナウイルス禍で制約の多い高校生活を送った学生にとって、検定合格は励みになった。ニュース検定に取り組むことで自覚を促し、入学後のスムーズな学びにつながる」と評価し、来年以降も継続することを決めた。

このほか明学大では、公務員志望の3年生が試験対策セミナーで、難易度の高いニュース検定の2級を受検することで、公務員試験の合格率アップに結びつけているという。

【尾崎敦、写真も】



明治学院大の今尾真法学部長

